

教師であることを支える教師教育

～ 信濃教育会と福井大学連合教職大学院の歩みから ～

教師の長時間労働と多忙化が世界的な社会問題となり、「well-being」への関心が高まっています。日本においては、労働環境の厳しさが浮き彫りとなり、教員志望者が減少しています。

このような厳しい状況下にある学校現場では、それぞれの地域的特性や経験を活かしつつ、「令和の日本型学校教育」を実現するという課題と、これまでの公教育の質を維持するという課題に、同時に取り組んでいます。さまざまな試みが展開する中で、合流点の一つは、学校、地域、大学、自治体をつないだ広いコミュニティの重奏の中で、「教師であること」を支えることにあります。

教師であるとはどういうことなのか。この問いに対して、1886年（明治19年）7月に設立された信濃教育会は、長い年月の中でふるいにかけて、磨きあげられてきた教師たちの経験や実践を土台とした独自の教師像を示し続けています。

Zone B「教師教育」では、信濃教育会との対話を通じて、教師であることを支える自律的かつ専門的な教師教育のあり方について問い直してみたいと思います。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

【登壇者】

大日方 貞一 氏（公益社団法人 信濃教育会・会長）

松木 健一 氏（福井大学・理事/副学長）

西村 拓生 氏（立命館大学文学部・教授）

*詳細は今後更新